

教宣 せぶん

人のつながりは組織をこえる

判決日まで後2ヶ月余りとなりましたね。先日、元契約系の新年会を開催しました。ほとんどのメンバーとは1年ぶりの再開で話しに花が咲く中、組合のことが話題になりました。そんな中で多くの人たちが外勤支部のホームページにアクセスし、分会の教宣速報や「どぶいた」を見ていることを知りました。

(財産訴訟のなかで)脇山氏と弁護士とのやり取りが伝えられていましたが、制度廃止の経緯や、労組が転進支援を受け入れたのは組合員がそれを望んだからとの証言、さらには組合財産をそっくり労組に渡すことにおかしいと思わないことなどに対し、仲間の多くが望んで代理店になりたいと組合の場で話したことはないし、組合財産に対しても腹立たしく、脇山氏に裏切られたという話しがでていました。

現実の壁は高く、厚く困難を伴いますが、司法が正しい判断をすれば、勝利判決は確実だと思います。たたかっている皆さんに敬意を表します。人のつながりは組織をこえると思います。頑張ってください。

昨日、この手紙が届きました。教宣誌「NANIWA」や「いしずえ」にも組合記念日での取りくみの模様が伝えられ、そのなかで暖かく支援してくれるOBとの交流の様子が記されていました。私の後ろにも、選んだ組織や進んだ道は違っても、昔、同じ釜の飯を食った仲間や先輩がこのたたかいを応援してくれている現実を目の当たりにして、感激したしだいです。また、最初からこのたたかいを支援してくれている大先輩のはからいにあらためて感謝しました。

いま、代理店に転進された方たちも、代理店創設時の忙しさから解放され、また社員時代とは異なる業務にも慣れ、ようやく気持ちに余裕が生まれた頃なのだと推察します。同時に、ここ数年の「出来事」を、冷静に、客観的にふり返った時に、「どうして?」とか「おかしい」という感情が生まれているのではないのでしょうか。また代理店として外から見た時の東京海上日動社の「ぬくもりのなさ」に、「不満」や「奇異さ」をおぼえるのではないのでしょうか。合理性を追求し、コンピューターにすべてを頼り、OA化をすすめる流れ、その流れは否定しないものの、顧客との人間関係や信頼関係を抛りどころにして、また特に大切に仕事をしてきた日動社出身の私たち契約係社員は、この会社の「ぬくもりのなさ」「血の通わなさ」に、直感的に「違う」という感覚を持つのではないのでしょうか。

数字のようにきっぱり割り切れないのが人間です。人間が「主役」の企業であり、人間が「お客さま」の会社です。行き過ぎた「合理化」は人の心を荒廃させます。法令を無視した「合理化」は、企業の「質」を露呈させます。